会　議　録

会議名	2026 年度第３回東浦町地域福祉推進委員会	
開催日時	2026 年 10 月７日（水）午前９時 30 分から午前 11 時まで	
開催場所	東浦町勤労福祉会館２階　会議室１	
出席者	アドバイザー	原田正樹氏
	委員	原田正治氏、日髙啓治氏、水野泰介氏、吉田禎宏氏、寺倉正恵氏、山﨑紀恵子氏、金森大席氏、大澤美佐子氏、鈴木洋子氏、滝川美知子氏、宮池始氏、田島由美子氏、瀧本星子氏、山田祐太氏、外山綾子氏
	事務局	原田ふくし文化部長、村上ふくし課長、森ふくし課社会高齢係長、友永ふくし課地域共生社会推進係長、大島ふくし課地域共生社会推進係主事、畔上障がい福祉課長、新家子育て支援課長、三浦健康課長、髙見東浦町社会福祉協議会事務局長、山木東浦町社会福祉協議会統括係長、和田東浦町社会福祉協議会地域福祉係長、田中東浦町社会福祉協議会介護事業係長、小林東浦町社会福祉協議会包括係長
議題	（１）第３次東浦町地域福祉計画（案）について （２）第３次東浦町地域福祉計画概要版（案）について	
傍聴者の数	０名	
審議内容	◆事務局 ・委員会開催の定足数に達していることを確認 ・会議録作成のための録音の了承 ・次第に従い、会議を進行 １　あいさつ ◆事務局（ふくし文化部長） ・本日は、2026 年度第３回東浦町地域福祉推進委員会にご出席いただき誠にありがとうございます。委員の皆様におかれましては、日頃よりそれぞれのお立場から本町の福祉行政を支えていただき心より感謝申し上げます。また、本日はアドバイザーとして日本福祉大学学長の原田正樹先生にお越しいただいております。どうぞよろしくお願いいたします。さて、本日の会議では、第３次東浦町地域福祉計画（案）についてご審議いただく予定です。これまでに委員の皆様からいただきました貴重なご意見を踏まえ、	

	計画の取りまとめに向けた重要な段階を迎えております。限られた時間ではありますが、本町の地域福祉をさらに推進させるための重要な会議となりますので、どうぞ活発なご議論をお願いいたします。 ◆事務局 ・配布資料の確認の後、以降の進行を委員長に引き継ぐ ２　議題 （１）第３次東浦町地域福祉計画（案）について ◆事務局 【資料１について説明】 （２）第３次東浦町地域福祉計画概要版（案）について 【資料２について説明】 ◆委員 ・概要版のアンケートの結果からみる課題のまとめがわかりやすく、地域福祉計画が必要ということが住民の方にも伝わるのではないかと思いました。ただ、包括的支援体制や計画策定の位置づけの図が小さくて見にくい。頁数の都合もあると思いますが、残念に思いました。 ◆委員長 ・頁数との兼ね合いもありますが、図を大きくできるようであれば考えていきたいと思います。 ◆委員 ・行政計画なので、硬い文言になるのは仕方がないと思いますし、計画書本編はこういう形になると思いますが、概要版には「地域住民の皆さんと一緒にやっていくんだ」というような表記、「地域住民イコールあなた、私だよ」ということを表記していただけるとよいと思いました。行政、社協、推進委員が勝手に作ったものではなく、自分たちがやっていくという見せ方がよいと思いました。

	◆事務局 ・今のご意見について、地域の人たちが見やすいものだったり、馴染むものであったり、皆さんが自分たちの話なんだと意識していただけるような見せ方の提案がありましたらお願いします。 ◆委員 ・包括的支援体制の図をＡ３サイズの別刷りにして付けていただくようにはできないでしょうか。 ◆委員長 ・私も同様に思いますし、皆さんも同感だと想像します。デザインもある程度調整できるということでよろしいですか。 ◆事務局 ・Ａ３サイズというご提案もありましたが、印刷の兼ね合いなどもありますので、もしＡ３サイズにできない場合でも、皆さんが見やすいようなデザインや表記の仕方を検討させていただきます。 ◆委員 ・重点プロジェクトの説明をもう少し柔らかく、やさしくして、わかりやすくできないかと思いました。 ◆委員長 ・概要版はわかりやすく伝えるツールとして、とても重要になると思うので、表紙にスローガン的なものが入ってもよいと思いました。本編の 83 頁の計画の推進体制にある「地域福祉の主役は住民一人ひとりです。自分たちの住む地域を住民同士の支え合いや助け合いで安心して暮らすことのできる町にしましょう」とか「していこう」みたいなものを表紙に入れると、本編とつながってよいと思いますし、自分たちの計画なんだということを伝える言葉になるのではないかと思いました。 ◆委員 ・東浦町らしさで言うと、伝統文化や皆さんの活動の絵などを入れてるとよいと思います。

	◆委員 ・この冊子は、ふくし課の窓口などの見えやすいところに置き、相談に来た町民の方が見ることで、役場だけでなくＮＰＯ法人や、いろいろなところと連携していると実感できるようになると思います。 ◆事務局 ・地域の方たちに周知していきたいので、窓口等に置いて、見ていただけるようにしたいと思っています。 ◆委員 ・自分の祖父の免許返納の件でふくし課へ行った時に、東浦町は免許返納後１年しかサポートがないとお聞きしました。その時は家族が頑張るしかないんだと感じましたが、この図を見ると、ＮＰＯ法人や社協などがあり、困った時は社協に相談すればいいんだと気づけました。役場の窓口ではそう答えるしかなかったのかもしれませんが、次につながる言葉をくださるか、いろいろなところとつながっていることを見える化されるとよいと思いました。 ◆事務局 ・今のお話は、今回の第３次計画の具体的施策の中にも関わってくるところになります。社協や担当課等を案内するような横断的な連携に加え、町、社協、地域の方々、事業所がつながっていくようになるとよいと思っています。 ◆委員 ・本編によると地域福祉に興味のある方は 50%を切っている状況なので、窓口に置いても町民の半分以下の人しか手に取らないですよね。地域で活動していても、危機感ではなかなか参加者は来てくれなくて、どちらかというと楽しさがあると来てくれると感じています。ですから、ポップな感じにしても良いと思います。行政として難しいのはわかりますが、これとは別に子どもが見てもわかるぐらいのリーフレットがあっても良いと思いました。 ◆委員 ・概要版の重点プロジェクトの文章がむずかしくて、「基本施策を具現化するための３つの重点プロジェクト」は、たぶん読んだだ

	けでもわからないと思いますし、「住民の皆さんの力が必要不可欠」の“力”は、どちらかというと“参加”とか“協力”というような、一緒に何かしていこうと伝わる言葉に書き換えても良いと思います。最後頁の図の説明も硬いので、柔らかく身近なものに表現できないかと思いました。 ◆委員 ・皆さんが言われとおり、一般の方が見られると興味がわかないと思いますが、役場がつくるものですので、あまりにも砕けたものは難しいのだろうと思います。全てこの中に網羅したいという気持ちがあると思いますので、変な言葉はなかなか書けないと思います。ですから、地域住民で行う計画だというような、少し砕けた感じにするとよいと思います。山田委員が言われたように、小中学生の子たちが見てもわかるような感じで、「こういうことをやっているよ」ぐらいの感じでいいのかなと。目標や目的は必要なのかな。地域の人に頑張っていただこうという時に、こういうことをやればいいとか、こういうコミュニティに入ればいいかとか、そういう軽い感じにしていただけるとよいと思います。 ◆委員 ・重点プロジェクトの３つの輪を対流させるというのが第３次計画の一番の思い。第２次計画ではそれぞれのプロジェクトが個々で独立していましたが、振り返ってみたら３つが結局つながって、ぐるぐる回って一つの形になるということを発見したのが第２次計画の成果だと思うので、第３次計画では、この３つがぐるぐると回って、実はみんながここのどこかに入っていて一つになっているということを表現できるとよいと思いました。 ・前回の概要版が手元にないのですが、アンケートの結果からみる課題のまとめは、１頁分を使う必要はないと思います。 ・文章が硬かったり、字がたくさんあるものはみんな読みたくない。前回の概要版は、概要版を見ながら言葉を加えて説明していくという使い方をしていた。言葉はあった方がいいと思いますが、できれば計画本編をしっかり見ていただくようにつながっていけばいい。そちらに細かいことは書いてあるので、概要版は、なるべく見やすく、説明する側が思いと言葉を添えるものになっていくとよいと思います。

	◆委員長 ・広報には、おだいちゃんがコメントをしたり、要約を一言でつぶやいていたりするので、そのような工夫があるとインパクトもあるし、伝わりやすくてよいと思いました。 ◆委員 ・前回の概要版にアンケートは載っていましたか。 ◆事務局 ・アンケートではなくて、課題のまとめが載っています。 ◆委員 ・行政や委員が勝手につくったのではなく、住民の意見も踏まえてつくったということが大事だと思うので、スペースを少なくしてもよいので、アンケートは載せてもらいたい。課題というと、まとめたものになってしまうので、「皆さんからの」ということが伝えられたらよいと思いました。 ◆委員 ・重点プロジェクトの基本目標１・２・３のところが、一般の方たちにはわかりにくい。基本目標１には「気になる心でつながる」、基本目標２は「だれもが持てる力を発揮する」、基本目標３は「お互いさまがあたりまえ」というテーマがありましたね。基本目標１とか２とか言ってもわからないと思いますので、そこまで柔らかくしてもよいと思います。そして、「気になる心でつながる」というのは、ほっとけんな～につながっていく、「だれもが持てる力を発揮する」で於大学が開始される、「お互いさまがあたりまえ」でみんなでスクラムをやっていくというところで、だんだん具体的なものが見えてくる。この柔らかい言葉が真ん中で、３つがぐるぐる回るのが重点プロジェクトかなと皆さんがわかってくださるのではないかと思います。前の時にはいろいろなことが書いてあったので、１つに絞ったらどうかと思いました。 ◆委員長 ・事務局が示された概要版を見ると、推進委員会で議論してきたことを少しでもお伝えしたい、概要に盛り込みたいという気持ちが伝わってくるので、それをわかりやすくすることは非常に難しい

	部分もありますが、伝えるためにはそういうことも必要ですので、事務局にお願いしたいと思います。 ◆事務局 ・皆さんのご意見等を踏まえて、もう少しわかりやすく、柔らかくというのが一番の課題だと思います。社協とも話し合いながら、次回、皆さんに見ていただくときには柔らかくなったと思っていただけるようにしたいと思います。 ◆委員長 ・それでは議題（2）については終了といたします。事務局にお返しします。 ◆事務局 ・それでは最後に、アドバイザーの原田先生から本日のご講評をいただきたいと思います。 ◆アドバイザー ・56 頁のほっとけんな～は、とても大事なプロジェクトになると思います。頼れる身寄りがいない高齢者等がこれから増えてきます。単身世帯が増えると、関係者の皆さんが心配されているのは認知症の発見が遅れることです。認知症だけではなく、困りごとが外に出てこないと発見が遅れて、支援もそれだけ遅れてしまうので早期発見がとても大事です。早期発見は専門職だけではできないので、近所の方や地域の方が気づいてくださることが必要で、そういう意味ではこのほっとけんな～という意識を持つ人たちを地域の中で増やしていこうというのはすごく大事な取組だと思います。そこを住民だけではなくて、専門職がしっかりとアウトリーチをしながら、住民の皆さんが気づいたことしっかりと受け止めて、支援につなげていくことがすごく大事なことだと思いました。 ・58 頁ですが、重層的支援体制整備事業の参加支援の取組は、他の自治体だと居場所づくりばかりをするんですね。居場所づくりをすることも大事ですが、ひがしうら於大学で、学びと居場所と地域参加を一体的にできる仕組みをつくっていこうというのは、すごく大事な取組ですし、東浦らしいと思います。 ・60 頁のみんなでスクラムという地域づくりでは、隣組スクラムを

	発展させながら、住民の方たちだけに丸投げするのではなく、行政や社協、施設、専門職の人たちと住民が一緒にスクラムをつくっていこうということをもう少しはっきり打ち出しながら、東浦らしい取組をしていくことが伝わるとよいと思いました。 ・74 頁の具体的な施策の「社会福祉施設の活用」は、「活用」という表現より、社会福祉施設も主体的に関わって、周りの人たちと一緒に取り組んでいくという能動的、積極的な部分がもう少し表現されると施設との連携が進むのではないかと思いました。 ・ひがしうら於大学のこと考えると、社会教育や生涯学習との連携は大事になってくると思います。75 頁の学校等における福祉教育には教育課と連携とありますが、於大学を展開していく時には、社会教育施設や生涯学習との連携も大事になってくるだろうと思いました。 ３　その他 ◆事務局 ・計画案を 11 月６日の役場内部の行政経営会議で報告、11 月 27 日の全員協議会で議員へ報告、12 月～１月にパブリックコメントを実施する旨を連絡 次回の委員会は 2027 年２月 17 日（水）に行う旨を報告 閉会を宣言 以上